神岡営林署における造林関係事業の安全活動について

神岡営林署　　森　下　秋　平

1. はじめに

神岡営林署の造林関係事業では、過去5年間に、毎年約1件の公務災害が発生していた。昭和59年5月、地拵作業中に発生した災害を契機に、各担当区で「これではいけない！」「どうしたら災害を妨げるのか？」と、真剣に過去の安全活動を振り返り、より充実した安全活動を推進するために災害防止対策を決め実施してきた。その結果、無災害で現在に至っているので、その実施内容を報告する。

2. 過去の安全活動の反省と問題点

私達の過去の安全活動は、上からの指示によるものが多く、下からの盛り上りに欠け、改善する事が多いのに気づいた。

その具体的事項は次のとおりである。

(1) 「ＴＢＭについて」

ＴＢＭは、主任・班長からの一方的なもので班員からの意見が少ない。

(2) 「ハット通報について」

ハット通報の重要性の認識不足で、提出が少ない」

(3) 「作業基準、作業心得について」

作業基準、作業心得の遵守・徹底に苦労している。

(4) 「災害発生速報について」

十分に活用されていない。

(5) 「安全当番について」

安全当番の認識が低い。

(6) 「家族懇談会について」

家族が職場の実態を十分理解していない。

(7) 「安全大会について」

安全大会は年間行事の一環としての意識が強く、受身的立場としての出席である。

3. 現在の安全活動と結果

これらの問題点を分析し、よりよい安全活動を実施するために、次のような活動を実施してきた。

○　ＴＢＭについて

主任、班長からの当日の作業内容、人員配置、合図確認等連絡方法の徹底、仕事の段取りの指示のほか、安全作業について班員も積極的に発言して、全員で安全に対する確認をしあうと共に、作業終了後、当日の作業段取り、あるいは安全作業が適確であったかどうかについて話し合った。

○　ハット通報について

ハット通報の重要性をみんなで話し合うと同時に様式を簡潔にし、作業終了後安全当番が聞き取り記入するようにしたことにより、小さな事でも自主的に申し出されるようになった。そのハット通報をＴＢＭで討議すると共に、営林署において集計、分析し不安全因子の早期発見に役立てるなど活用を図った。

○　作業基準、作業心得について

作業基準、作業心得の周知徹底と習慣化に努めることとし、下記の重点実施事項を定めて実行した。

- 基本事項

  上下作業、接近作業の禁止

- 作業種別重点実施事項

  地　　拵……切株は絶対に落さない。

  　　はね返りに注意する。

  植　　付……掘り起した石を落さない。

  　　土のはね返りに注意する。

  下　　刈……鎌の大振りに注意する。

  　　時間規制の遵守。

  つる切、除伐……周囲の障害物を除去し手元ぐるいに注意する。

  除伐Ⅱ類、間伐…指差呼唱の徹底

  　　危険木の適正処理

その結果、現在ではほぼ完全に守られるようになった。

○　災害発生速報について

災害発生速報がきても、自分のものとしての検討が十分でなかったことを反省し積極的な諸々の安全活動を通し、現在では速報がくると“どうしてそういった災害が発生したのか、自分

たちの作業現場では、危険な場所や動作はないか”などについて全員が意見を出し合い検討するようになった。その結果、危険予知による危険排除の適確な実行につながった。

○　安全当番について

安全当番としての認識が十分でなく、マンネリ化傾向であったが、安全はみんなが主役であり、一人ひとりの自覚と積極的な取り組みが必要であることを認識し合い、次の事を実行した。

イ　安全旗の掲揚

安全当番は、毎朝安全旗を上げ作業終了後はおろす習慣をつけ安全意識の高揚を図った。

ロ　林業体操

テープレコーダーで実行していたのを安全当番のかけ声で実施した。かけ声をかけることによって、安全当番の自覚がもてるようになった。

ハ　安全日誌の記載

記入事項が、天候、作業内容等になりがちで、安全活動に十分活用されていなかったが、全員の話し合いの中で積極的に記入することを確認し合った結果、ＴＢＭの内容、毎日の安全活動の反省等の記入が行われるようになり、安全活動の活性化に役立てられた。

○　家族懇談会について

〈目的〉

現場での作業を家族の目で見てもらい安全や健康管理に対し理解と協力を得る。

家族ぐるみの付き合いで、職場内の和を深める。

以上の目的により現場で家族懇談会を実施した結果、一日の仕事を終えて家に帰り山の話をしても仕事の苦労や安全に対し、家族の理解が得られ“安全は家族から”という理解が深まると同時に健康管理についても以前に増した家族の気くばりにより私傷病が、昭和59年度 360 日であったのが、今年度は、95日と大幅に減少している。

○　安全大会について

「聞く大会から、参加する大会にしよう！」をスローガンに、現場で話し合った結果、毎朝実行しているＴＢＭを寸劇化し、各担当区ごとに実演した。また、短冊に各自の安全目標や衛生標語を書いて竹に吊し、会場に立てるなど、自分から直接参加しみんなの前で発表したことにより、安全活動に対する自覚ができ、今までにも増して積極的に安全活動に取り組むようになった。

○　ま と め

私達の安全活動は与えられるものではなく、自分達で作り、自主的に実行するものだということを認識し合い、積極的に実行してきたところ、職場に活気があふれ今日まで災害は発生していない。更に無災害でより楽しい職場を作ることが、現在の厳しい国有林野事業の改善の一

助になると考え、全員一丸となって積極的な安全活動に取り組んでいきたい。